



ミンガラバー

認定 NPO 法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会

〒700-0023
岡山県岡山市北区駅前町2丁目4番23号
TEL:086-224-0102
FAX:086-221-2554
URL:http://www.mjcp.or.jp

また1つ、寄付クリニック

中国建設工業贈る

ミャンマーにまた1つ、協会の呼びかけによる新しい診療所ができた。6月25日に贈呈式があり、寄付をした岡山市南区泉田、中国建設工業の松尾一昌社長や中山栄一監査役、協会の岡田茂理事長らが出席し、開所を祝った。



ヤンゴンの中心から北へ約1時間半の農村地帯のグエンタール村に完成した「中国建設クリニック」。協会からの寄贈では8か所目となる。



④開所した中国建設クリニック
⑤挨拶する中山監査役、左端が松尾社長

周辺の風景まで変わっていた

クリニック訪問記

岡山コンクリート工業

社長 池田 修

会社設立50周年を記念して、ヤンゴン郊外のカラウエル村に「ときわ・オカコンクリック」を寄贈して、丸2年たちました。6月下旬に訪ねてみると、当時の風景とは明らかに変化がみられました。ヤンゴン市街地

からクリニックまでの道路は改善され、周辺に家屋も増えていました。

昨年11月に訪れた時もそうですが、今回も、心地よい歓迎を受けました。改めて、この医療支援事業が、みんなに喜ばれており、一企業、私個人としても大変誇りに思いました。村長のラ・ハンさん、看護師さんらスタッフの方々と会って現況の話や聞く機会に恵まれました。村長さんからは感謝の

言葉をいただき、また、スタッフの方々からは帰る際、記念に小さな宝石で描いた絵をいただきました。

現在、このクリニックをとりまく環境としては、9の村、7の地域で構成されており、約29,000人が居住しているとのこと。それに対して、地域保健センターとしての当クリニックと他に補助センター3か所まで対応しています。当クリニックだけでみると、以前は約

ここには診療所があったが、老朽化がひどく、雨もりがしたり、床のコンクリートがひび割れたり、それを鉄筋レンガ造りに全面的に建て替えた。

村には約4千人が住み、去年は160人が出産したほか、マラリアや赤痢などの患者も多い。新しいクリニックには助産師、看護師、保健師ら5人が常駐。医師はいないが、病状の重い患者がいればいつでも対応できるようになっており、地域保健センターの役割を担う。

贈呈式では中国建設工業の中山監査役が英語で挨拶をし、松尾社長がヤンゴン市保健局の副局長にクリニックの引渡し書類を贈った。この様子はヤンゴンのテレビ局や新聞も取材し、報道された。

2,500人が医療の対象数でしたが、今では約4,000人に増加しているようです。



宝石絵をスタッフから贈られる。左から2人目が池田社長、左端は永山久夫・協会理事、ヤンゴン郊外

ヤンゴンに日本語学校

衛生センターの寄付で

日本語が堪能で、将来の日本とミャンマーの医療向上に尽くす医療人材を育てたい。このような協会の思いにこたえて、岡山市南区当新田の衛生センター(八田武志会長)から資金提供の申し出があり、それをもとにヤンゴンに日本語を学ぶ「MAJAJA岡山学識センター」(MAJAJA Okayama Knowledge Center)が発足した。

MAJAJAはミャンマー元日本留学生会で、日本政府の支援を受けており、ミャンマーにおける日本語検定試験実施などに協力している団体だ。MOKC運営委員は、日本側からは協会の岡田茂理事長、永山久夫理事、西川格氏(倉敷芸術科学大学日本語教師)、ミャンマー側はミョーキン医師(MAJAJA副会長、前ミャンマー国立医学研究局長)、ミンソウ氏(MAJAJA財務委員長、自営業)が就任した。

6月26日の開所式には、衛生センターの八田高志社長も出席して、挨拶した。学生たちがこの日のために覚えた東日本大震災復興ソング「花は咲く」をみんなで合唱した。

現在、学生は20歳前後を中心に、入門から上級までの5コースに44人。日本語のほか、医療についての情報も学ぶ。将来的には日本に留学して、看護学、介護学、

産科棟も併設しており、この1年間の出産実績としては、妊婦さんの3分の2にあたる65人がクリニックで出産しており、亡くなった妊婦さんは1人もいなかったようです。後の約30人は自宅で出産しています。出産前後の処置が以前よりも格段に改善されている証しだと思います。

この村では水環境(井戸の数、井戸水)、衛生トイレの数、医療器具の不足などの諸問題も多々残っています。

驚いたのは周辺の様子です。これからも、寄付をすればそれで終わりという「過性」ではなく、私たちができること、私たちができないことをいろいろ模索し、永く支援をしたいと思えます。

臨床検査学、理学・作業療法などの学校で日本の資格を得て、日本の医療施設で十分に患者ケアを学んだ後、その技術をミャンマーで役立てることができると

電動式ベッド ベッドサイドモニター 超音波診断器具 ヤンゴンの病院へ

協会を通じて6月、瀬戸内市の医療機器製造久山正治さんが電動式ベッドを、岡山大学病院がベッドサイドモニターをヤンゴンの新ヤンゴン総合病院に贈った。

また東京都世田谷区の生理化学研究所(川口健代表)が超音波診断器具4台をヤンゴンの北オカラップ総合病院などに寄付した。

車いす20台を 京都東ロータリー

京都東ロータリークラブ(田中誠二会長)は車いす20台を協会に託し、その贈呈式が6月25日、ヤンゴンであった。これで3度目の寄付。

今回はヤンゴンの社会福祉財団が受け取り、カイン州のリハビリ施設で使われる。

新たに救急医療調査も

総会 事業計画決まる

協会の第8回総会が8月4日、岡山市中区の岡山プラザホテルで会員70余人が出席して開かれた。2012年度の事業報告と収支決算、13年度の事業計画と収支予算別表IIが承認された。総会後の懇親会ではハワイアンの演奏とフラダンスを楽しみながら交流を深めた。



予算の説明を聞く会員＝岡山市中区のホテル

協会の活動が、公益性が高いとして、寄付や会費が税制上優遇される「認定NPO法人」になって1年余。12年度の寄付金は、当初100万円と見込んでいたのが、実際は寄付が相次ぎ600万円を超えた。これも「認定効果」とい

えそう。13年度の事業費は前年度の250万円から460万円に増額して、活動を二層充実させる。主な事業としては、ミャンマーから医療人を招いての研修、研究支援として5人程度を予定している。一方、こちらからはミャンマー医学研

究総会に参加したり、現地での手術指導をしたりする。これまで進めていた井戸水のヒ素汚染対策を宮崎大

研究会に参加したり、現地での手術指導をしたりする。これまで進めていた井戸水のヒ素汚染対策を宮崎大

協会だより

DMR創立50周年

式典に出席
理事長、祝辞述べる

ヤンゴン代表をおく前DMR局長
ミャンマーの窓口は協会にヤンゴン代表をおくことにし、DMRの前局長ミヨウキン医師に委嘱した。同医師はミャンマーの窓口役になる。これまでも協会がしどうした医師らの受入や日本への研修生の人選などに係るなど縁が深い。

2013年度収支予算

[収入の部]		説明
費目	予算(円)	
繰越金	6,080,235	前年度より繰越
会費・入会金	2,150,000	会費235人、入会金23人賛助会費7人
寄付金	1,000,000	役員運営協力金20人ほか寄付金
雑収入	650,765	預金利子家賃収入等
合計	9,881,000	

[支出の部]		説明
費目	予算(円)	
事業費	4,600,000	ミャンマー医療人の研修・研究支援に関する事業2,500,000 公的機関と協力して支援する事業800,000 ミャンマーにおける医療実践を支援する事業700,000 組織活動の公表に関する事業500,000
会議費	100,000	総会懇親会・役員会等
旅費	200,000	出張旅費
光熱水費	180,000	電気、ガス、水道代等
通信運搬費	210,000	電話代・インターネット使用料等
消耗品費	70,000	プリンタートナー等事務用品
印刷費	30,000	総会資料等印刷代
諸謝金	100,000	総会特別講演謝礼
借入金返済	1,440,000	借入金の返済
負担金支出	5,000	岡山県国際団体協議会等負担金
支払手数料	35,000	郵便振替手数料等
交際費	50,000	理事長交際費
委託料	105,000	決算書作成委託料
賃貸契約料	800,000	賃貸契約に基づく固定資産税
予備費	1,956,000	
合計	9,881,000	

「将来、役立つと思つて」

ミャンマーで研修の藤本医師

民間病院として国内最大級の亀田総合病院(千葉県鴨川市)の藤本剛士医師(27)は熱帯病に関心を持ち、1か月にわたり、ヤンゴンにあるミャンマー保健省医学研究局(DMR)で研修した。この橋渡しをした協会の岡田茂理事長に、同医師から報告者が届いたので、その要約を掲載する。

ラリアに感染した血液を顕微鏡で観察したり、殺虫剤濃度と蚊の致死率の関係について調べたり、子宮頸がん

の原因となるウイルス型の同定、さらに緑茶の抗菌作用についての実験もしました。日本では臨床医としての仕事のみだったので、研究について学ぶ機会を得て大変有意義でした。検査について深い知識が身につく、将来

の研究にも役に立つと思えます。熱帯医学についても、例えばマリア感染症では寄生虫学にとどまらず、昆虫学まで学ぶことで疾患と人々の生活の結びつきについて意識することができました。

DMRでは海外からサポートを受けているものも十分であり、国際協力の難しさを痛感。国際協力においては、一つの国に集中し、言語・文化・国民性について理解したうえで取り組むこと、持続可能であること、医療のみでなく食事や衛生環境などの改善という点が非常に重要であるように感じました。今後、例えば共



研究室は蚊よけの網戸の中。中央が藤本医師＝ヤンゴンのDMR

広報室から

私は仕事の忙しさに気をとられ、道端に咲く草花を見過ごしてしまいました。心を澄ませて見ると、緑の若葉の美しさが目に沁みました。そこで「一輪の花との出会いがあったのです。その美し

一輪の花

皆さんは仕事や日常の生活の中でちよつとした発見に喜びを見出しているでしょうか。便利な世の中になればなる程、心の潤いが無くなりがちです。仕事を機械的にこなして、人生において喜びの時間を持たなくなっているの

さと思わず足を止めました。それぞれの何10枚もの繊細な花びらが、やさしい朝の陽を浴びて輝いている様子に感動しました。

忙しいに追われる日常生活であるほど、猛スピードで時間が過ぎていくものです。そんな時は自然のすばらしさにも気づかないでしょう。時には肩の力を抜いてみましょう。自然に目を傾け自然の息吹を感じ取り、心豊かに生活をしていきたいものです。

このほか暑かったこの夏、どうぞ体調をくずさずお過ごしくださいませ。

(福山支部長 西山央子)

編集後記

あれも載せたい、これも載せたいと、いつもより多くの項目を入れたため、レイアウトにひと苦労。見出しや写真にゆとりがない、いささか窮屈な紙面になりました。これも協会の活動が活発だった証しとして、ご寛容に。(西崎)

新しい理事に岡山放送の報道局長八代尚巳(やしろひさし)さんが8月4日付で就任した。

50万円を寄付

岡山経済同友会(泉史博、萩原邦章両代表幹事)が「協会の活動に役立ててほしい」と8月21日、50万円を寄せた。